

今週のメニュー

トピックス

塩ビものづくりコンテスト2011

- 応募頂いた作品の一次審査で13点が選ばれました -

塩ビものづくりコンテスト実行委員会事務局

随想

チュニジア・ナウ

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

編集後記

トピックス

塩ビものづくりコンテスト2011

- 応募頂いた作品の一次審査で13点が選ばれました -

塩ビものづくりコンテスト実行委員会事務局

昨年の10月20日にキックオフした塩ビものづくりコンテストですが、今年の2月28日に作品の応募を締め切り、173件の作品が寄せられました。応募頂いた方は、85%が30台以下の若い方で、職業は学生40%、会社員37%、プロデザイナー15%と幅広く、地域では全国から応募がありましたが、関東59%、中部15%、関西13%が多くありました。また、製品のエントリーも同日に締め切り、176件の製品エントリーがありました。これらの中から、一次審査、最終審査を経て、大賞、優秀賞、特別賞、入賞が6月末に決まります。



今回応募頂いた作品の審査は、当初、3月12日を行う予定でしたが、震災のため1週間遅らせて行いました。大竹審査委員長はじめ、秋山様、石橋様、熊谷様の審査員の方々に事前に審査方法と判断基準の確認を行って頂き、全作品173件を当協会のある六甲ビル8階の大会議室に並べて審査が行われました。

A3サイズで最大2枚のプレゼン紙が審査会場一杯に広げられ、全国から寄せられた作品が一堂に見られる様子は、主催者として感激でした。審査員の方々は丁寧にその全作品に目を通して、気になる作品にマークを付けて行かれました。マークされた作品を20数点持ち寄り、今回のテーマである「新たに切り拓く、PVCの可能性」に照らして、作品毎に応募者の意図とその可能性を見て、一次審査をパスする作品が選ばれました。

その選ばれた作品の応募者の方に、3月末、事務局から電話とメールで審査員のコメントも添えて通知致しました。北は北海道から南は沖縄の方が選ばれています。一方、何人かの応募された方から当協会に可否の問合せがありましたが、審査の結果について都度ご



第一次作品審査の様子

報告しております。一次審査にパスされた方は思いがけない吉報に喜ばれていましたが、残念ながら落選された方は落胆の溜息が聞こえるようで、事務局として苦しい立場でした。

現在、最終審査に向けて、製作可能と思われる12作品についてプロトタイプ of 準備をするため、事務局が仲介して、共催している塩ビ関連団体に試作依頼とその検討を開始しています。製作には東京、名古屋、大阪の各地区での加工組合員会社協力し、素材の提供も日本ビニル工業会の一般用フィルム部会員会社が協力して頂けます。

プロトタイプ of 製作には全面的に主催者が無料で支援することになっていますが、今回選ばれた13作品の中で、7件が応募者ご自身で塩ビ素材を入手して作品を作られ、その経験をベースに作品応募をされていたことに、主催者側の皆さんが一様に驚かれ、感心させられました。

今後の予定は、5月20日にエントリーされた製品と応募用紙の送付締め切りがあり、製品の一次審査を6月上旬に行い、作品のプロトタイプも含めた最終審査を6月中旬に行います。審査結果については6月末に日本ビニル工業会と当協会のホームページで発表し、7月6日に東京竹橋の「如水会館」で関係者を集めて表彰式を行います。

今回の塩ビものづくりコンテストに応募頂いた方にビジネスの機会を提供することを目的に、入賞された作品と共に、惜しくも落選された作品についても、応募者の了解を得た上で、東京、名古屋、大阪の会場で展示会を行うことを計画しています。既に、東京では、表彰式翌日の7月7日から9日まで、六本木のAXISビルB1Fのギャラリーで展示会を行います。奮って皆さまにご参加頂きたく、併せて、ご連絡申し上げます。(了)

随想

チュニジア・ナウ

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

3月11日に発生した東日本大震災で日本では震災に関するニュースが非常に多くなり、あまり海外、特に中東のことは報道されなくなりました。その間も、中東情勢はどんどん変わっています。

今年に入り、中東諸国から中国まで、多くの国でこれまでの政治体制を変える運動が急激に広がりつつありますが、この原動力になったのがチュニジアで起こった「ジャスミン革命」です。チュニジアから始まった運動はエジプトに飛び火し、現在ではリビアと中国が注目を浴びるようになり、これらの運動の発端となったチュニジアのことについて日本ではほとんど報道されることはなくなりました。

23年間チュニジアを統治していたベンアリ前大統領は2011年1月14日、サウジアラビアに亡命し、現在は持病の糖尿病が悪化しサウジアラビアの病院でかなり危険な状況にあるとの情報が流れています。チュニジア外務省は、現在もサウジアラビア政府に、ベンアリ前大統領の身柄引き渡しを求めています。

エジプトのムバラク前大統領も避難先であるエジプトの保養地シャルムエルシェイクで検察当局による事情聴取中に心臓発作を起こし入院をしていました。一時は昏睡状態になったなどの情報も流れていましたが、その後、回復し、息子2人と共に検察当局に身柄が拘束されたようです。

この二人に限らず、独裁政権を追われた人は、なぜか直後に重病になる人が多い気がします。。。

そこで、チュニジア旅行記を始めるにあたり、現在の状況をお知らせしましょう。

ベンアリ政権崩壊後、首相のガンヌーシ氏が一時期引き継ぎましたが、ベンアリ大統領を支持していた立憲民主連合（RCD）に属していたためチュニジア国内の反政府デモは激化。2011年2月27日に辞任。翌28日、元外務大臣のベジ・カイドセブシ氏が新首相に就任しました。

2011年3月末、チュニジアの首都チュニスに住むチュニジア人に電話をして現在の状況を聞いてみました。

- ・何と言っても、自由に思想や政治について話をする事が出来るようになりました。
- ・2月末以降、チュニス市内では大きなデモは行われておらず、デモ隊により破壊された施設や商店の復旧が急ピッチで行われています。
- ・一時期、つながりにくくなっていた電話やインターネットも通常の状態に戻りました。
- ・都市部から一時的に避難していた人たちも家や職場に戻り、公共交通機関や商店、会社なども通常業務に戻りました。
- ・食料品等はほぼこれまで通り出回っていますが、値上がり傾向にあります。
- ・観光客がほぼゼロとなり、観光が主要産業であるチュニジアにとって厳しい状況となりつつあります。観光関係を中心に失業する人がかなり出ています。
- ・隣国、リビアの方が状況が悪化しており、チュニジア国内に多くのリビア人が避難してきており、チュニス市内にも多数のリビア人がやってきています。いまのところ国連などが支援をしているため大きな問題は起きていませんが、リビアから流入してくる人たちが増えたり、支援が滞るようになったときの治安の悪化が心配です。

というようなことを話してくれました。

逆に、日本で起きた震災のことを心配し、市民の有志が在チュニジア日本大使館に亡くなられた方のために記帳に行こうという運動も起きているそうです。

他にも何人かのチュニジア人とメール等で連絡を取っていますが、現在チュニジア国内ではなぜ「ジャスミン革命」が起こったのかという分析が始まったそうです。

日本のマスコミ報道を見ると、失業率（特に若者の）の高さによる不満が発端であるとの分析が多いのですが、チュニジア国内では別の見方をしているようです。

現在、チュニジア国内で最も支持されている原因は「ブーム」。若者を中心に一時的に非常に大きな盛り上りを見せた「ジャスミン革命」でしたが、ベンアリ政権が崩壊し、残ったものは。。。

ベンアリ前大統領、確かに一族で私腹を肥やしていたことは確かですが、イスラム教を維持しながらも、観光客の誘致だけでなく、農産物の輸出拠点として、工業の生産拠点として、関税を低く抑え、ヨーロッパを中心に世界へ門戸を開いた政策をとっていました。

このことが功を奏し、世界各国も安心して投資ができる国として、ヨーロッパのリゾート地として、あるいは食料供給国として順調な歩みを見せていました。

しかし、「ジャスミン革命」後は政情不安定と判断され各国からの融資はストップか引上げ、観光客は激減、輸出は辛うじて続いているものの、この先、供給不安のリスクがつい

て回るなど悪循環に陥ってしまいました。せっかくよりよい生活を求めて起こった「ジャスミン革命」が、実際には裏目に出てしまったようです。

チュニジアでは、「ものすごく盛り上がったね」という反面、時間が経つにつれて「あれは何だったの？」と考え込む人が多くなりつつあるそうです。

「ジャスミン革命」が起こる前のチュニジアの GDP はここ数年、世界で 60 位前後。ILO 発表の最新の失業率は 13.2%。実際には 30 歳以下の失業率は 30%を超えているとの調査結果もありますが、現段階ではもっと上がっているはずです。

長い年月をかけて築き上げた「安定、安全な国チュニジア」。以前の評価に戻るにはこれからどれくらいの時間が必要なのでしょう。

(つづく)

前回：[「チュニジアの若者たち」](#)

編集後記

今回の震災では多くの方々からの支援や応援のシーンに接するたびに、大変心が和まされます。一方では、原発事故に関して、日本の農作物の輸入禁止から工業製品の放射能チェックなど、過剰な海外の対応振りや情報の伝わり方に愕然とくるものもあります。風評被害を防ぐためにも、日本からは正確な情報を発信してもらいたいし、海外にはその情報を正しく理解する姿勢を持ってもらいたいものです。トピックスで取りあげた塩ビものづくりコンテストにもあるように、ものづくりは日本の得意技、がんばれ日本！

なお、連休中のメルマガは休刊いたしまして、次回は 5 月 12 日(木)の発行となります。

(HI)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL info@vec.gr.jp